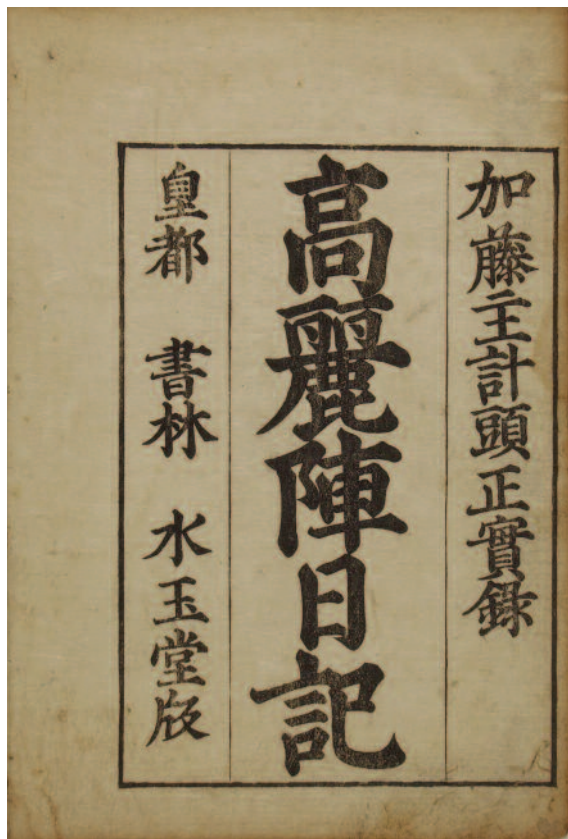
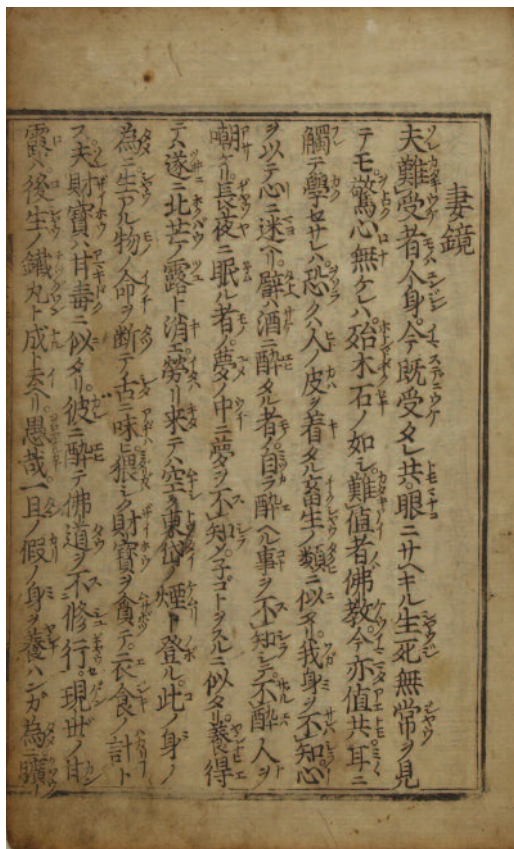


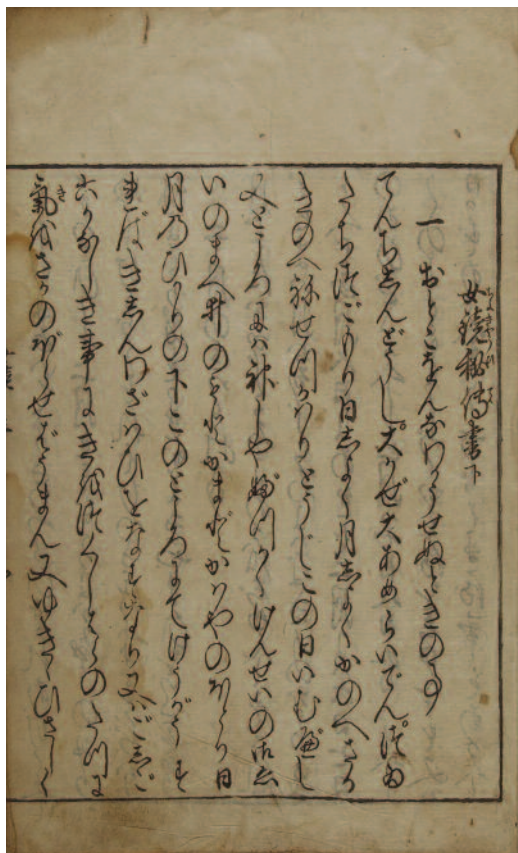


3. 高麗陣日記 (太田牛一著)

平家物語卷第八
 壽永二年七月廿四日夜半計法皇ハ按察使大納言
 資方卿ノ子息右馬頭資時計ヲ御供ニテ竊ニ御所ヲ
 出サセ給ヒテ鞍馬ヘ御幸ナル寺僧共是ハ猶都近ウテ
 アミウ候ヒナント申ケレバサラバトテ篠ノ峯藥王坂ナト
 云フサカミキ嶮難ヲ凌カセ給ヒテ横川ノ解脫谷寂場
 坊ヘ入ラセオハシマス大衆起テ東塔ヘコソ御幸ハナル
 ヘケレト申ケレハ東塔ノ南谷圓融房御所ニナルカ、リ
 シカバ衆徒モ武士モ皆圓融房ヲ守護シ奉ル法皇ハ仙
 洞ヲ出テ天台山主上ハ鳳闕シ避テ西海攝政殿ハ
 芳野ノ奥トカヤ女院宮々ハ八幡賀茂嗟峨太秦西山
 東山ノ片邊リニ付テ逃隱シサセ給ヒケリ平家公落又シ



2.妻鏡（寛永十八年春三月吉日刊行）



4. 女鏡秘傳書（慶安三年刊）

新板 浅草観世音由来記
一七

そのうち廿二代貞川のいんのまゝでよくてなす二月
きんへんのえんより火いそきんはまゝまのさうなり
ありくまよとそその附んばうわのふの神より死さう
たまりて一本の木のまゝまゝまゝまゝまゝの木も又すて小
火をらんとせるとさ大面まゝまゝまゝまゝてて一本の
めづるまぢくとあやむむらうらうつめまのまハ
屋けすとやまのちもまゝくまゝいそはまゝひあじ
うどあまひハまゝまゝのう又ハ風まゝ大面まゝふ堂の
めづるのまゝやうてのまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
あうてまゝのまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ
ちまひいとありまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝまゝ

七十六代乙丑の己のきふうさまのうゑ源のうゑとも



八 春夏秋冬（二陽齋豐國画・文化三年刊）





九 句兄弟 (其角編・元禄七年序刊)

にふ力なりとあふを風情を記
浦よりあふさるるともいつるしるは
何れをとくあふれん耳は中目より
けすの境自然を志すへー
三千四番

兄

西鶴

鯛ハ在ハぬ里もあきより月
中

鯛ハ在ハ江戸に生れてるの月

三十五番

花をよみし心より二千里の外の
心より一句のそ尾緒類なり中七字
力をかえて啓榮期り樂なりと
進み明波江戸生きて住りのくゆ
なを月をうそおの魚のあさけを
初めて字景嘆時のおのい感今懷古
未二千年字世の月をえとる鶴
と云ふんわらふとハ歌なり
今ハ故人のやう成ぬ

三三
一五拾人
首五十鈴川狂歌車（北齋辰政画・享和二年刊）





三三
一五拾
首人五十鈴川狂歌車（北齋辰政画・享和二年刊）





西

三	二	一	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一
亥	戌	酉	申	未	午	巳	辰	卯	寅	丑	子	亥
金	金	下	江	二	江	上	仙	金	江			
全	全	下	江	二	江	上	仙	金	江			
戶	戶	戶	戶	戶	戶	戶	戶	戶	戶			

南榮生千
南榮生千
南榮生千
南榮生千
南榮生千
南榮生千
南榮生千
南榮生千
南榮生千
南榮生千
南榮生千
南榮生千
南榮生千

學廼門居士三回忌續号披露祝會

方

方

三	二	一	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一
亥	戌	酉	申	未	午	巳	辰	卯	寅	丑	子	亥
金	金	下	江	二	江	上	仙	金	江			
全	全	下	江	二	江	上	仙	金	江			
戶	戶	戶	戶	戶	戶	戶	戶	戶	戶			

南榮生千
南榮生千
南榮生千
南榮生千
南榮生千
南榮生千
南榮生千
南榮生千
南榮生千
南榮生千
南榮生千
南榮生千
南榮生千

西

三	二	一	十	九	八	七	六	五	四	三	二	一
亥	戌	酉	申	未	午	巳	辰	卯	寅	丑	子	亥
金	金	下	江	二	江	上	仙	金	江			
全	全	下	江	二	江	上	仙	金	江			
戶	戶	戶	戶	戶	戶	戶	戶	戶	戶			

南榮生千
南榮生千
南榮生千
南榮生千
南榮生千
南榮生千
南榮生千
南榮生千
南榮生千
南榮生千
南榮生千
南榮生千
南榮生千

夢園集

旅の細

[illegible]

水魚連月並文友集狂歌合
 至清堂主人
 干種菴主人
 早喜
 花あきとんもちて風吹
 つゆのけともあつちし柳
 花あきとんもちて風吹
 梅うなうなう風吹
 三月



87. 朝鮮人行列次第 (實曆十一年序刊)





59.長崎出島ヨリ遠眼鏡ニテ清國カラ歐洲ヲ眺望スル圖



59.長崎出島ヨリ遠眼鏡ニテ清國カラ歐洲ヲ眺望スル圖



59.長崎出島ヨリ遠眼鏡ニテ清國カラ歐洲ヲ眺望スル圖



59.長崎出島ヨリ遠眼鏡ニテ清國カラ歐洲ヲ眺望スル圖



75. 世を渉る たつきの 風琴



72.横田利三郎醫學士ベスト菌感染ニヨル殉職資料



90.早稲田大学競争部卒業生ノ個人アルバム



90.早稲田大學競争部卒業生ノ個人アルバム



90.早稲田大學競争部卒業生ノ個人アルバム



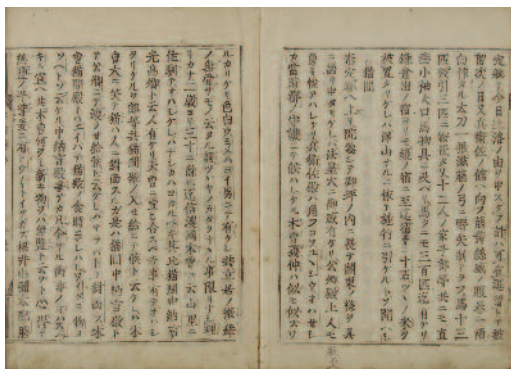
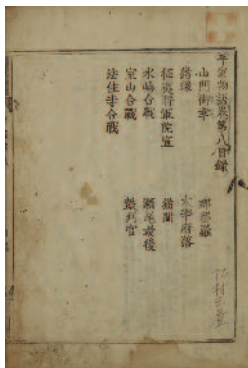
90.早稲田大學競争部卒業生ノ個人アルバム



90.早稲田大學競争部卒業生ノ個人アルバム

拜啓仕爰其後、御無音致と云、先是念、何多程、奉
 大加、まゝと云、無事、四能、在、石、以、放、念、被、下、度、云、
 却説、我、か、き、り、下、放、新、聞、紙、上、来、ん、中、夏、
 ノ、為、こ、ん、懸、賞、論、文、ヲ、募、集、し、ま、就、テ、費、用、廿、四
 程、入、用、ニ、ツ、キ、二、三、ノ、見、師、ノ、中、致、に、申、上、ト、云、
 間、何、在、
 而、多、端、ノ、節、ノ、中、迷、惑、ニ、つ、け、
 捐、り、ト、交、奉、致、と、云、
 又、奉、致、と、云、
 六月六日
 浅野富平様
 編輯局
 田岡幸助
 角、
 角、
 角、

一 平家物語 卷第八 原裝栗皮表紙 題簽欠 元和中刊 大1冊 五〇、〇〇〇
 一 古活字版。二八丁マデ存。末尾欠丁。卷頭ニペン書入レ多シ。二頁参照



二 妻鏡

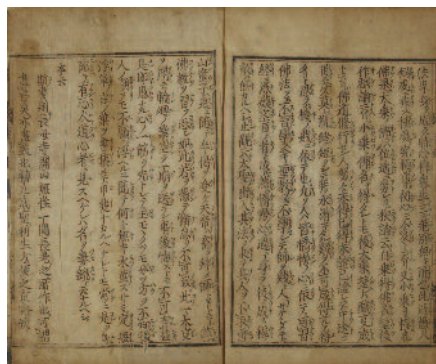
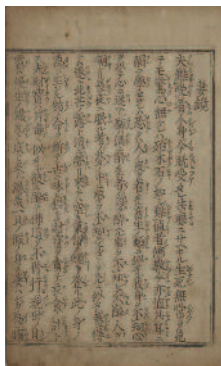
― 無住著

書キ題簽

寛永一八年春三月吉日刊行

大 二冊 三五、〇〇〇

三頁参照



三 高麗陳日記 上中卷

— 加藤主計頭正實錄

簽

太田牛一著

元祿一五序刊

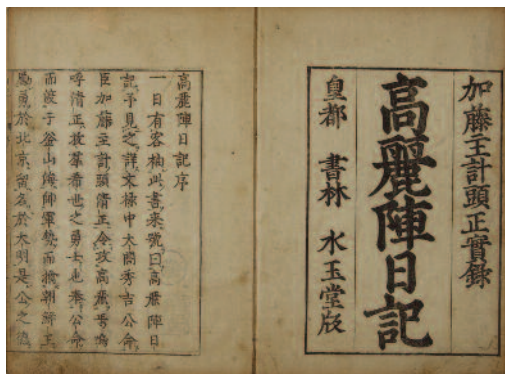
半二冊

八〇、〇〇〇

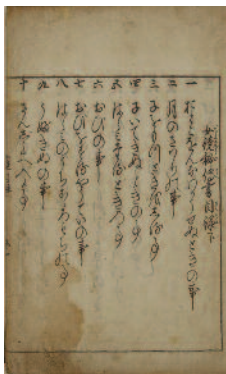
皇都／書林／水玉堂版

內題「高麗陣日記」

一頁參照



四 女鏡秘傳書 下卷（上・中欠）
— 二条下寺町／野田弥兵衛板



簽欠 慶安三年刊

大二冊 二五、〇〇〇

四頁参照

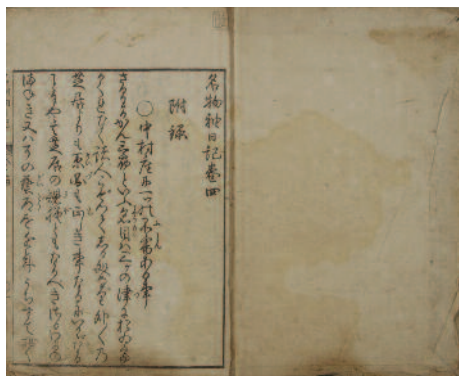


五 名物袖日記
—万里亭著

卷四（五卷ノ内） 簽欠

明和八（國書）

中一册 一〇、〇〇〇



六

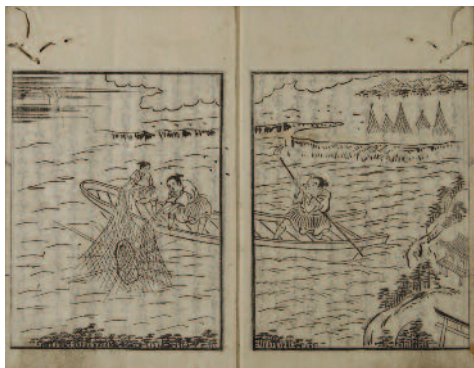
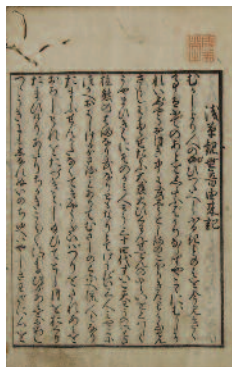
新板
— 江戸芝神明前書林／藤木久市再拝上梓
浅草観世音由来記

安永三年刊

半一冊

八〇、〇〇〇

六・七頁参照



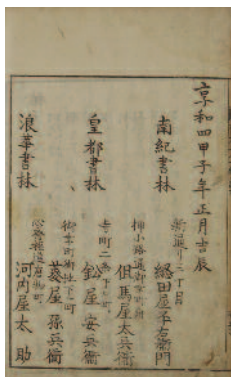


七 祐天上人一代記 六卷

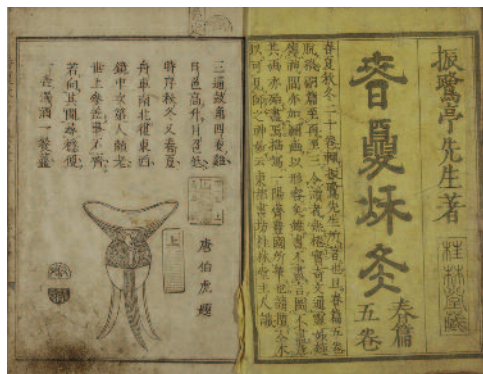


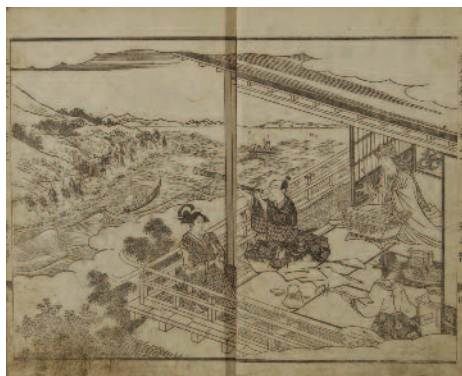
簽 享和四年正月刊 半六册 八〇、〇〇〇





八
 春夏秋冬 春編五卷（以下未刊） 簽二冊存 文化三刊 半五冊 二〇、〇〇〇
 —東都／振鷺亭主人著 一陽齋豐國畫 八・九頁參照





東都 振鷺亭主人 著
一陽齋畫國畫

文化三脈丙寅孟春刻成

書肆

京都堀川通上所 植村 藤右衛門
東武江戸橋西口市 西宮彌兵衛
大坂富崎橋通市 勝尾屋六兵衛
東都江戸橋西口市 石渡利助



九

諸附會案文

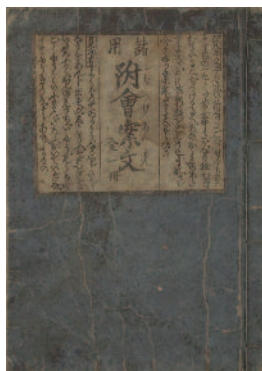
一丁ノ小口少欠損少欠字

箒

十返舎一九著画

無刊記

中一冊 二五、〇〇〇



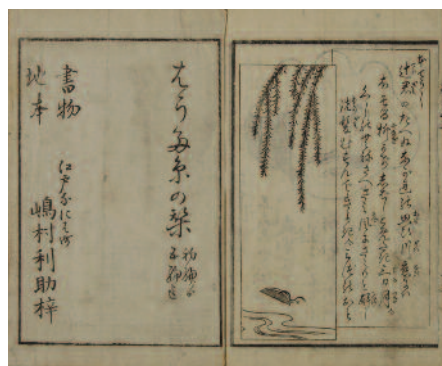


一〇 はうた糸の栗 初編 合本 籤欠 嶋村利助梓 無刊記 中一冊 三〇、〇〇〇

― 山閑人交來戯序。奥書ニ「書物／江戸なには町／嶋村利助梓」トアル。

嶋村利助ハ明治初期ニ馬喰町デ英蘭堂ト號シテ醫書ヲ手廣ク扱ウ書肆ト
ナッタガ難波町デ商イヲシテイタ江戸期ニハコノヨウナ書モ扱ッテイタ。





二 文乃志を里 艶書 簽 需應亭無欲山人戲題 無刊記 中二冊 二五、〇〇〇



一二 書札要文集

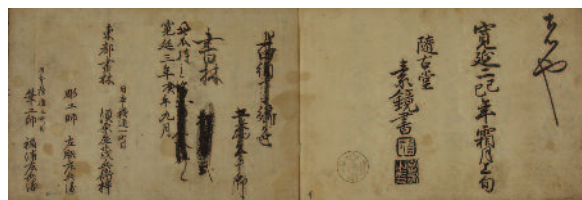
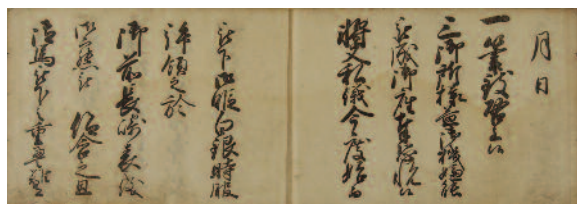
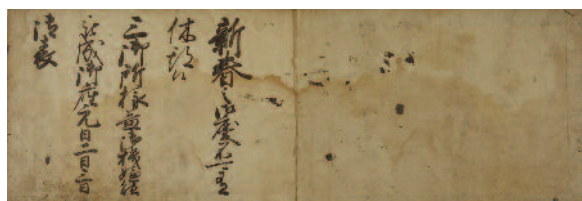
策擦レ

隨古堂／素鏡書

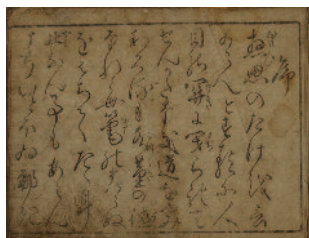
寬延三年刊

大横一冊

三〇、〇〇〇



一三 文帛



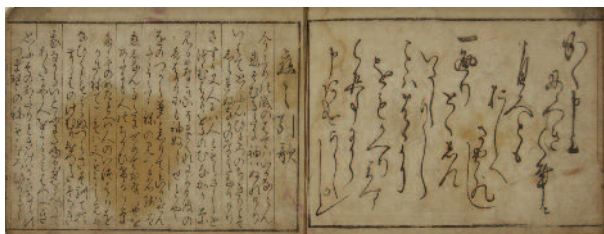
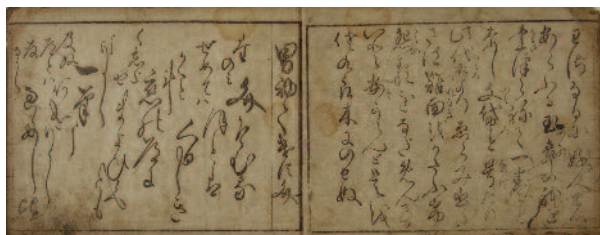
簽擦レ

無刊記

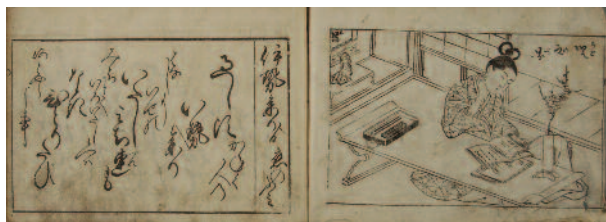
江戸後期刊

中横二冊

二〇、〇〇〇



一四 女筆逸題本 原裝釘 裏紙傷ミ 無刊記 江戸後期刊 中横一冊 一五、〇〇〇



一五

真書洛陽帖・真書新霽帖

簽

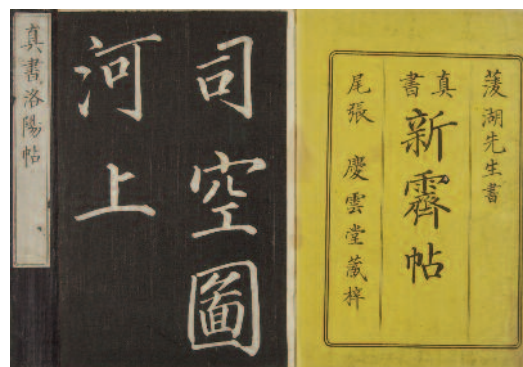
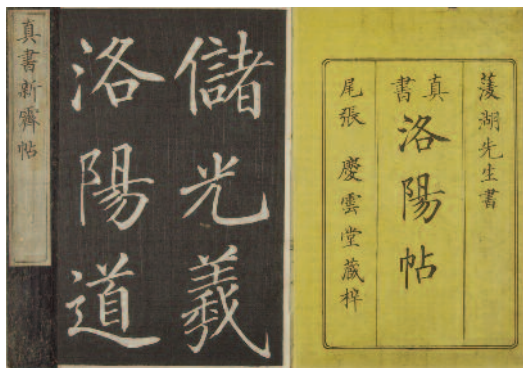
菱湖先生書

江戸末期

極大二冊

一五、〇〇〇

一尾張／慶雲堂藏梓 美本



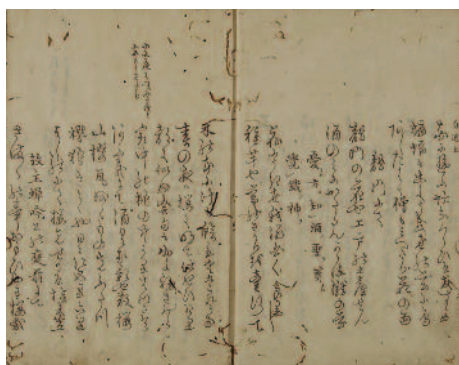
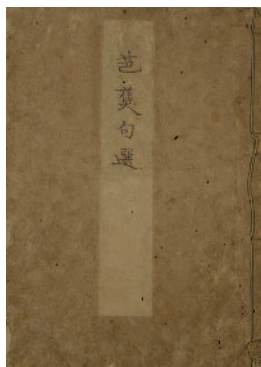
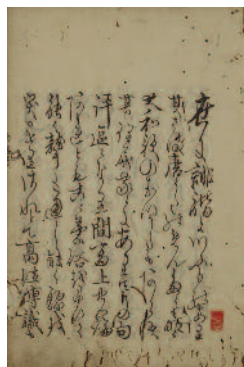
一六 芭蕉句選

簾 虫多シ

擲筆庵華雀編

無刊記

半一冊 一〇、〇〇〇



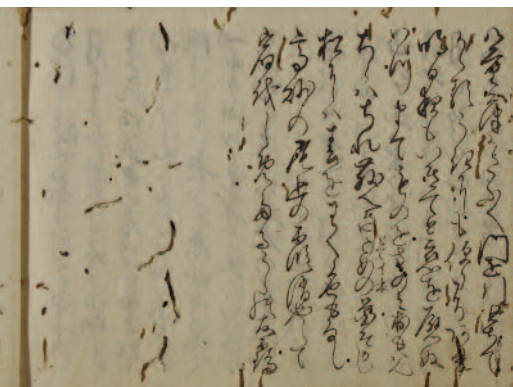
一七 宗長独吟伊勢千句

寫本

卷首大虫

江戸後期寫

中横一 三〇、〇〇〇



一八 句兄弟 上卷

箴 染ミ

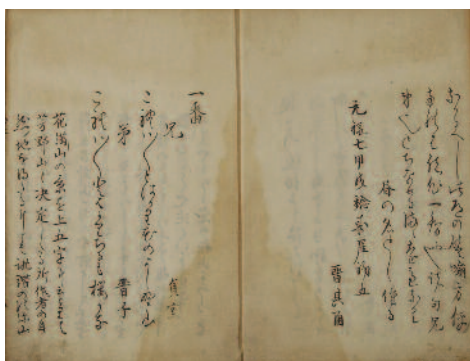
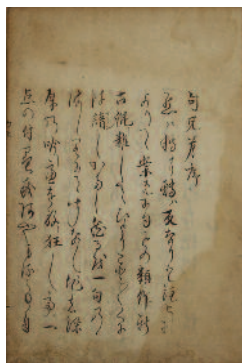
普其角編

元禄七年序刊

半二册

八〇、〇〇〇

一〇・一二頁参照



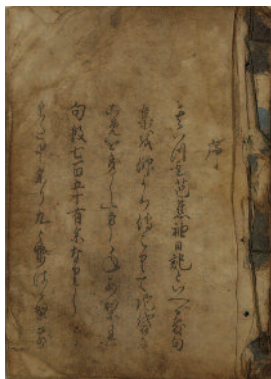
兄
屋形舟上即ち橋敷のときなり
舟
屋形舟の望見ぬ女中の中より
暮春のま情とすうぬに候ふよりと
をうむていぬしこよりて風せいのさ
けすうふ人のありけり
橋の上と向對して淵を天橋
江東日暮雲とつらぬ候かててむ
ぬみゆちうのほろけうは
おきんやとくけいあまうてふらり
春をかくさうけん山水遠處の人
十二番
兄
馬のいじけハ夕日のけり
舟
暮ハのきて年ハかきうけおけ

上ふかとも優義也まふひ市
句の奥へうよりこれに句すふり
一ふかふ一特ふかのゆきふりけり
廿二番
兄
人けうけやふ目かやふ
舟
舟けうけやふ目かやふ

十中安
兄
古梵
この相のあふうほろけき鳴こ
舟
あふうふかふふかん
富良野はあふうむ田家の神様山よ
下恩のううふ心をけりけり
あふこの音とくふ表あふけり
舟
舟けうけやふ目かやふ
舟
舟けうけやふ目かやふ



二〇 芭蕉袖日記 上巻 虬戸庵素綾編
 一 序文小欠損。表裏紙欠。傷ミ本。
 寛政一一年序刊 小二冊 一〇、〇〇〇



二二

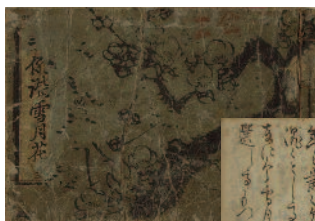
諸家俳諧雪月花
—書肆／大阪心齋橋一丁目／

簗

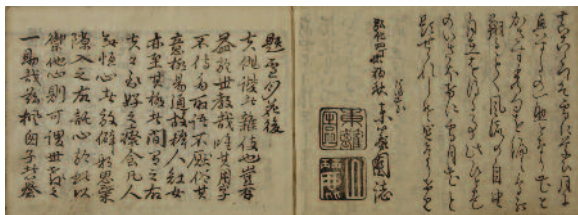
楓窓子編

弘化四年序刊

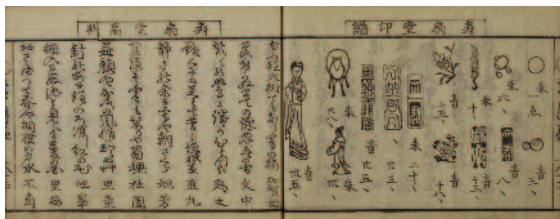
小横一三五、〇〇〇



雪月花
天竺の雪をよみしつゝ
後深のわしとて万葉集に
其のうたに雪月花とて
世にうたはれしやうと
いふをさうへんといひて
名を改めしつゝ雪月花と
いふ年、冊ありといふも
年し歳もろくはれし雪
月花とて、うたはれし
雪月花とて、うたはれし
雪月花とて、うたはれし



雪月花後
大徳後、難位也、豈有
益於世、故我時、其用子
不信、而後、不願、其
益、極易、而後、人、紅、女
亦、至、其、極、其、間、之、左
女、心、好、之、際、合、凡、人
知、懷、心、之、故、僻、於、思、蒙
際、入、之、左、執、心、於、此、以
御、他、心、則、可、理、世、之、
一、賜、哉、哉、哉、自、子、其、登

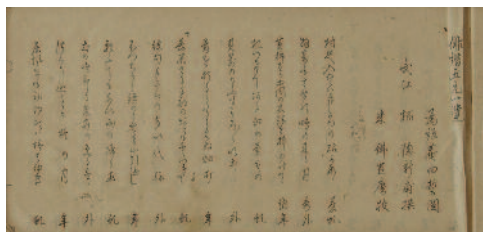
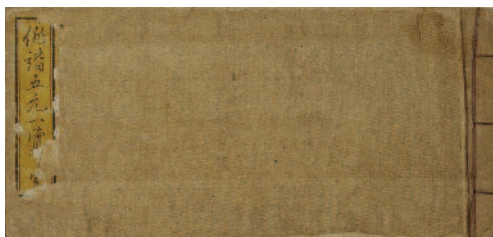


雪月花後
大徳後、難位也、豈有
益於世、故我時、其用子
不信、而後、不願、其
益、極易、而後、人、紅、女
亦、至、其、極、其、間、之、左
女、心、好、之、際、合、凡、人
知、懷、心、之、故、僻、於、思、蒙
際、入、之、左、執、心、於、此、以
御、他、心、則、可、理、世、之、
一、賜、哉、哉、哉、自、子、其、登

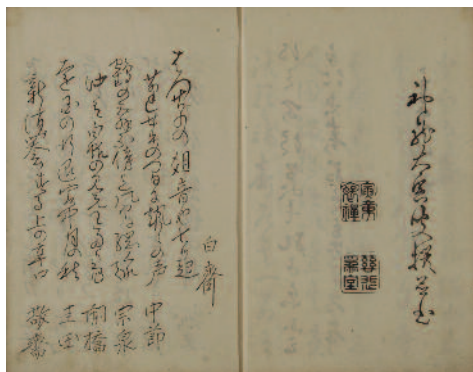
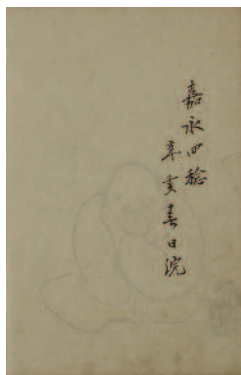


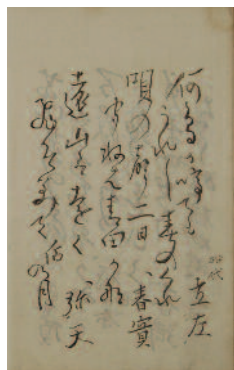
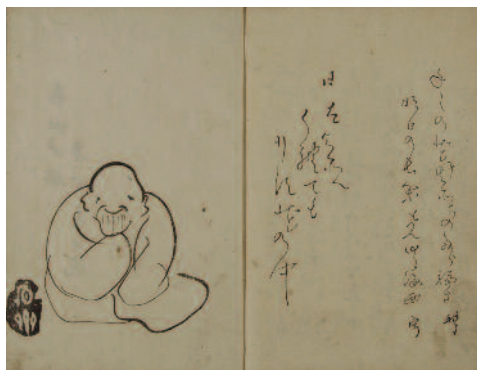
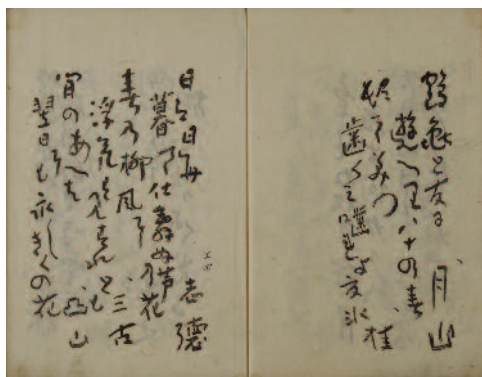
雪月花後
大徳後、難位也、豈有
益於世、故我時、其用子
不信、而後、不願、其
益、極易、而後、人、紅、女
亦、至、其、極、其、間、之、左
女、心、好、之、際、合、凡、人
知、懷、心、之、故、僻、於、思、蒙
際、入、之、左、執、心、於、此、以
御、他、心、則、可、理、世、之、
一、賜、哉、哉、哉、自、子、其、登

三三
俳諧五元一覽
— 由誓 閱
籤
雁皮紙本
新甫撰
安政五年春刊
三ッ切 一五、〇〇〇



二三 那か似記くさ 箋 信州上越俳人 白齋 嘉永四年刊 半二冊 二五、〇〇〇





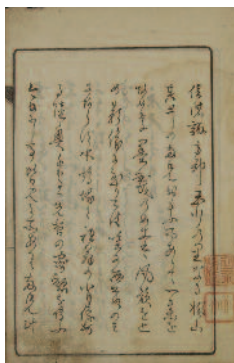
二四 信濃諏訪逸題俳書

題簽欠

春湖序

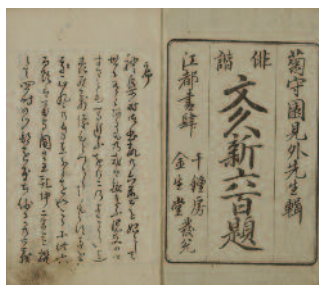
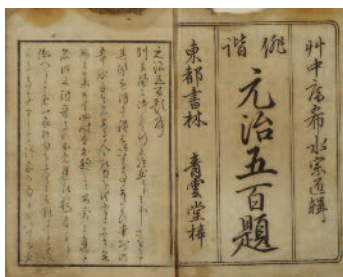
明治一四年跋

半二冊 二〇、〇〇〇





- 二五 今人五百題 簽欠 八雲東溟編 千輅校合 天保一二 小二冊 八、〇〇〇
- 二六 俳諧元治五百題 上卷 艸中廣希水宗匠輯 文久元年序 小二冊 五、〇〇〇
- 二七 俳諧文久新六百題 簽欠 菊守園見外輯 文久二序 小二冊 一〇、〇〇〇

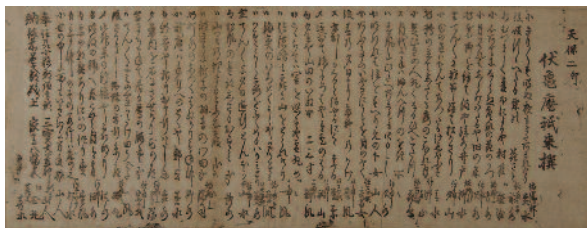


二八 俳諧摺物

塩川連・伏亀庵祇來撰他

天保期

四枚 三〇、〇〇〇



二九 信州明治初期俳諧資料

摺物一〇枚 句集五冊

一括 五〇、〇〇〇



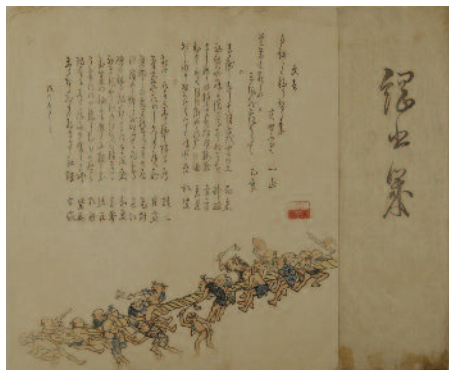
三〇 會津小荒井驛俳諧摺物

袋附

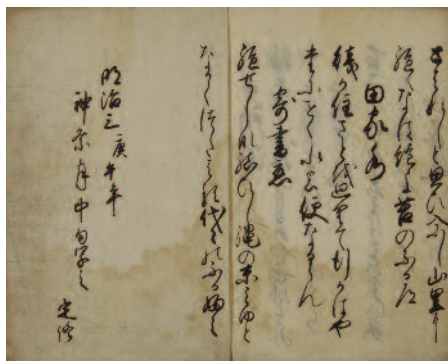
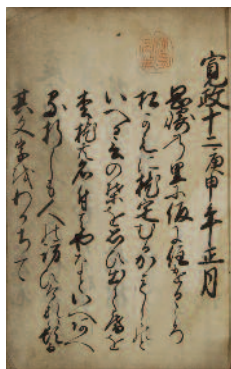
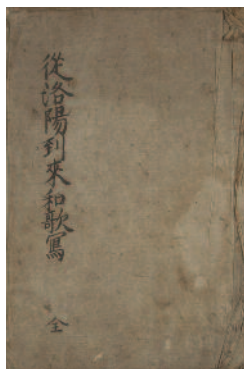
伊藤傳内

明治初期

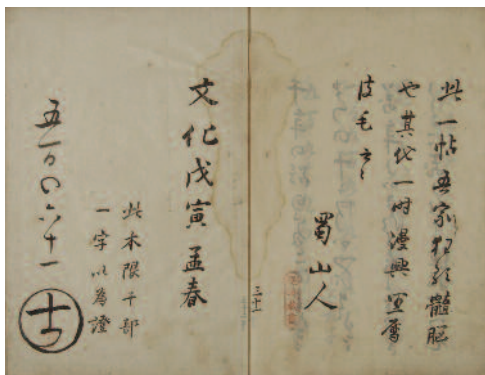
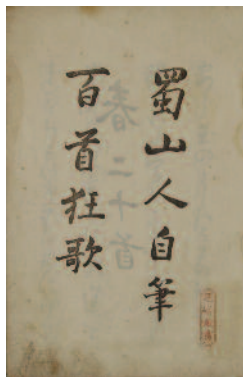
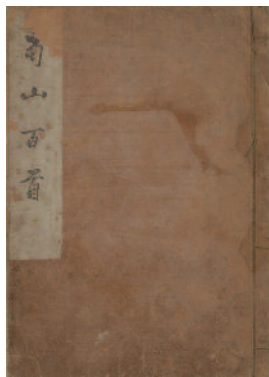
二枚 一〇、〇〇〇



三
從洛陽到來和歌寫 寫本四七丁 定修寫 明治三年寫 半二冊 一五、〇〇〇



三二 蜀山百首 簞 薄染ミ 蜀山人著 文化一五孟春刊 大二冊 二五、〇〇〇



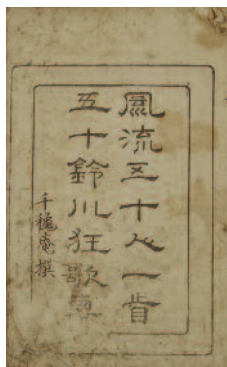
三三
五拾人
一首五十鈴川狂歌車

題簽欠 享和二年刊 大 一冊 五〇〇、〇〇〇

―千穂庵撰。画工／北齋辰政。書／富士唐丸。蔦屋重三郎版。

四圖ノ顔ニ墨ツキ。二圖ノ顔ニ少擦レ。染ミト喉上部ニ少シウマクイアリ。傳來ノママ未補修。蔦重板、天明六年、山東京傳ガ描イタ奇抜ナ画像版画ノ狂歌繪本『吾婦曲狂歌五十人一首』カラ約一六年、同ジク蔦重ヨリ今度ハ北齋ガ宗理期ト呼バレル最後期ニ描イタ画像版画。式亭三馬、十返舎一九、山松亭ナドノ名家五十人ヲ収メタ狂歌繪本ノ名品。コノ前後ニ『美やこ登里』『潮來絶句集』『はるの不尽』『狂歌山満多山』ガアル。

一二、一五頁参照









若くは美鳥
やみく大鳥
きくを附木乃
ほくきり
元と
ききき
おき
おき
一丁急













きぬ きハ
八八ね
かきや
きん
桑山子
きんりの
苗代よ米子
蘭麝香保留





千秋菴三陀羅法師

蓮華

山乃上り

舞臺

やうハ

おろ

め

うり



画工

北齋辰政

書

富士唐丸

享和二年

壬戌孟陬

萬屋重三郎版

三四

題狂歌伶野集
蝙蝠軒編

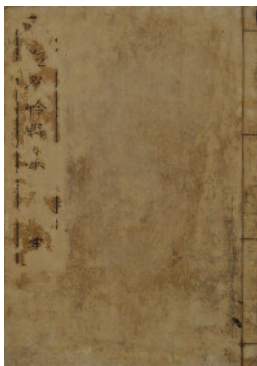
中卷

箴

嘉言画

弘化五（國書）刊

半二冊 二〇、〇〇〇



三五

狂歌江都名所圖會

七篇

簽欠

安政三(國書)

刊

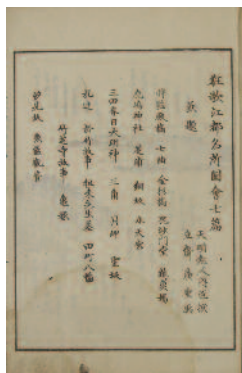
大二冊

二〇、〇〇〇

—天明老人内匠撰

立齋廣重画

小染ミ少虫



三六 月次満會師走の歌

表紙共四丁

江戸末期頃刊

半二冊 一五、〇〇〇

